

2022 年 1 月 28 日

2021 年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科修士論文

包括的性教育を基盤とした
家庭で子どもに多様な性を教えるための支援プログラムの開発

Developing Support Programs to Teach Children about Gender Diversity
at Home Based on the Comprehensive Sexuality Education

学籍番号 20mw010

氏名 白井 みゆき

要旨

【目的】 3 歳から 8 歳の子どもの親、または保護者が家庭のなかで子どもに多様な性について教育を行うことを支援するプログラムを自己決定理論に基づいて開発した。主にプログラムのプロセス評価を行い、有用性の高い内容へ修正することを目的とした。

【方法】 「家庭で子どもに多様な性を教えるための支援プログラム」を開発、実施し、事前事後のプログラム評価を実施した。研究対象者は、3 歳から 8 歳の子をもつ保護者とし、機縁法を用いて保育園、助産院の施設へ協力を依頼し、募集をした。プログラムの内容は、講座（「包括的性教育の必要性」「ジェンダー平等」「多様な性」「当事者のお話し」「家庭でできる性教育」）、リーフレット・ワークの配布、ニュースレターの配信、メール相談である。プログラム実施前、直後、1・3 か月後に Web アンケートを実施し、基本属性、プログラムに対するプロセス評価、知識、性役割態度尺度、性教育への意識、行動、動機づけについてデータ収集を行った。量的な分析には SPSS Ver. 28 を用い、自由記述はカテゴリ化し、質的分析を行った。研究期間は 2021 年 7 月から 12 月であった。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(21-A024)。

【結果】 参加フォームより申込みがあり、同意の得られた 31 名にプログラムを提供した。講座前・直後では 31 名 (100%)、1 か月後 28 名 (90.3%)、3 か月後 26 名 (83.9%) より質問紙への回答が得られた。対象者の平均年齢 \pm SD は、39.0 歳 (SD=4.1) である。講座やリーフレットの内容については、期待度、理解度、満足度、活用度、適切性、時間や教材、質問のしやすさなどの実質評価の項目において、非常にそう思う、そう思うという回答を合わせると、8~9 割であった。講座で得た知識を実際に家庭で子どもたちに伝えていくことや子どもとの対話のスキル獲得のニーズが高かった。講座前後で知識得点、性役割態度尺度ともに有意な差があった($P=0.001$)。自由記述からは多様な性を学ぶことで、「自分ごととして捉える」、「自分の価値観を認識する」、「他者を尊重する」、「固定観念への気づき」といった意識、態度の変容がみられた。特に当事者のお話が、意識、態度の変化に役立ったという意見が自由記述でみられた。性教育、性の多様性教育の意識の変化については、講座直後に有意な差が認められたが ($P=.001$)、性の多様性教育の実践状況については、プログラム前後で有意な差は認められなかった。動機づけについては、講座の直後で一時的に有意な差がみられたものの ($P=.005$)、継続して動機づけを高めることにはつながらなかった。

【結論】 子どもに性の多様性を教えるための支援プログラムを受けることで、プログラムの目標でもある性の多様性を自分ごととして捉え、自他ともに尊重し合うことの重要性や固定観念への気づきが得られることが明らかとなった。性教育や性の多様性教育への意識が高まり、一時的に性教育を行うことへの動機づけが高まることも示された。プログラムから得た知識やスキルを十分に活用できないことが示されたため、保護者が活用できるような講座内容へ修正していく必要があることが示された。